



## 2024年度敬老祝い金の実施案が明らかに 1万5千人、1億2635万円もの削減に 福祉保健委員会で示された、来年度の事業案 敬老金贈呈事業の見直しについて

### ●対象者及び贈呈金

年齢	対象者数	贈呈金額
	(令和6年度見込み)	
75歳	2, 1 6 1人	1万円
77歳(喜寿)	2, 1 3 0人	
80歳(傘寿)	1, 6 1 9人	
85歳	1, 0 1 9人	
88歳(米寿)	1, 0 0 2人	2万円
90歳(卒寿)	7 4 1人	
95歳	3 1 6人	
99歳(白寿)	9 7人	3万円
100歳(百寿)	7 9人	
105歳	7人	5万円
108歳(茶寿)	1人	
110歳(珍寿)	0人	
111歳(皇寿)	0人	
115歳	0人	
120歳(大環歴)	0人	
合計	9, 1 7 2人	1億1773万円
2023年度予算	2 4, 2 9 0人	2億4408万円
今年度比	▲1 5, 1 1 8人	▲1億2635万円

●贈呈時期 毎年10月

### ●見守り施策の拡充

#### ・新規施策

区内スタートアップ企業等と連携し、最新技術を活用した新しい見守りサービスを導入する。以下の3種類を予定。

①POM (高性能センサーにより心拍数や呼吸数等を計測して見守る。)

②かんたん見守りプラグ (コンセントに差し込み、動作や室温度等から見守る。)

③みまもり電池 (電池式で照明やTVリモコン等の使用状況から見守る。)

・その他、既存事業の機能強化として、緊急通報システムの充実、配食サービスを75歳以上の全員に拡大などを検討。

長谷部区長は、昨年の第4回定例会で、75歳以上の高齢者全員に1万円の現金給付をおこなってきた敬老祝い金を削減すると発言しました。私は、定例会の本会議で区長に対して、1万円の現金給付の継続を求めましたが、区長は背を向けていました。

区長は、「高齢者人口の増や「見守り活動」などを理由に、「持続可能性の観点から」見直しをするとしており、来年度予算原案でも減額されています。しかし、この事業の本来の目的は高齢者の長寿と健康を祝う事業であり、渋谷区が誇る高齢者事業の柱のひとつです。後退させることは許されません。

高齢者の声は切り捨て、対象者は62%、予算は55%もの大幅削減  
1月15日の福祉保健委員会に、「見直し」の具体案が示されました。それによると、今年度との対比で対象者は1万5118人(62%)、予算額は1億2635万円(55%)もの大幅減額となります。

高齢者福祉課では、シニアクラブにもアンケートをおこなったとのことですが、現金給付で現行通りの支給を求め、声も寄せられ、第9期高齢者保健福祉計画の住民説明会でも、1万円の継続給付を求める声が上がっていました。

## 臨時議会で物価高騰緊急支援金支給決定

### ●支給対象と支給額、支給時期

#### (1)住民税均等割のみ課税世帯

2023年12月1日現在で渋谷区に住民票があり、①昨年9月に3万円給付を受けている世帯は、7万円支給、②昨年9月に3万円給付を受けていない世帯は、10万円支給。3月中旬～給付開始。

#### (2)こども加算

(1)と同様に区内に住民票がある住民税非課税及び均等割のみの世帯で18歳(高校生)以下の子どもがいる世帯に、子ども一人5万円支給。4月中旬～支給開始。

### ●支給手続き

前回給付を受けている人は、プッシュ型(手続き不用)。初回給付のない人は、確認書あるいは申請書が必要。

敬老祝い金は、1万円現金給付の継続を

玉川上水旧水路緑道整備より、高齢者福祉を守って

区長は、「持続可能性の観点から」といいますが、17年後の75歳人口の増加予想は4000人弱で、予算の増加額も4000万円弱、17年間の平均増加額は年間平均2000万円です。一般会計予算のわずか0.02%に過ぎません。住民が反対している玉川上水旧水路緑道整備に100億円も投入する一方、高齢者のみならず、敬老祝い金を削減することに一片の道理もありません。